

整形外科外来だより

No 23 2012/1/1 けいゆう病院 整形外科 発行

◆ あけましておめでとうございます

新年にあたり、改めて当科の医師を紹介させていただきます。副院長の鎌田(専門は脊椎)、整形外科部長の千葉(股関節、人工関節)を筆頭にして、日方(脊椎)、川崎(膝関節、人工関節、リウマチ)、古川(脊椎)、白澤(肩関節、外傷)の6人です。今年もよろしく願い申し上げます。

また新年から当院では電子カルテが導入されました。導入初期は機械の不具合、不慣れなスタッフの対応など患者様にご迷惑をお掛けしてしまうと思いますが、ご理解・ご協力の程よろしく願い申し上げます。

◆ 指が伸びない病気(下垂指)

最近、当院では指が伸びなくなってきたと訴える患者さんが、よく来院されるようになりました。よくよく、お話を伺うと1年以内に背部痛と腕から手指の痺れを自覚されて、そのうち徐々に指(主に薬指、小指)が伸びなくなってきた物がつかめない、力が入らないという症状がでてきます。

指が伸びない原因は、多種多様にあります。神経の病気、関節の病気、筋肉(腱)の病気などが挙げられますが、今回は神経の病気について書きたいと思えます。指を伸ばす神経は、脳から首(脊髄)を經由して腕の方に進み、指に行きます。整形外科疾患において代表的な病気は、頸椎で神経が圧迫される病気(頸椎椎間板ヘルニア、頸椎症性神経根症)と腕で神経が圧迫される病気(トウ骨神経麻痺)が考えられます。いずれの病気かは、診察で予想がつきますが、診断を確実にするには頸椎レントゲン、頸椎MRI、筋電図検査を行います。

頸椎の手術は、神経本幹から出ている枝(神経根)の圧迫をとる手術ですが、マイクロ顕微鏡を使用すれば安全にできます。手術後に首の痛みを訴える方は少なく、頸椎カラーも1週間ほどで外せますので患者さんの負担も少ないと思えます。指の動きや筋力は、患者さんによって異なりますが、早い人は術直後から、遅い人でも半年から1年で改善します。

手指が伸びにくくなった時、力が入りにくくなった時と、完全に伸びなくなった時では、手術後の筋力の回復に差が出ますので、このような症状をお感じの患者さんは早めに整形外科に御受診下さい。

(文責 古川満・川崎俊樹)